

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月12日

上場取引所 名

上場会社名 株式会社 エスライン

コード番号 9078 URL <http://www.sline.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 山口 嘉彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長

(氏名) 村瀬 博三

TEL 058-245-3131

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	18,741	△3.8	291	136.7	357	81.6	45	97.2
21年3月期第2四半期	19,483	—	123	—	196	—	22	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	2.10	—
21年3月期第2四半期	1.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	28,260	14,016	47.4	626.68
21年3月期	29,234	14,076	46.1	630.06

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 13,394百万円 21年3月期 13,471百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	—	—	5.00	5.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,500	△3.7	750	78.6	850	53.4	750	—	35.09

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

詳細は5ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 21,753,993株 21年3月期 21,753,993株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 380,717株 21年3月期 372,904株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 21,376,268株 21年3月期第2四半期 21,408,354株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気に底入れ感があるとの見方があるものの、前年後半から続く世界的な景気後退を背景に、企業収益や雇用情勢の悪化、設備投資の抑制、個人消費の低迷など、実態経済は依然として厳しい状況が続いております。

エスライングループの主要な事業であります物流関連事業におきましては、燃料単価が昨年より下落しコスト負担が軽減したものの、景気低迷による国内貨物の輸送需要の減少や設備投資抑制による輸送物量の減少、更には、業者間での貨物獲得競争が激しくなるなど、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、エスライングループは、グループ各社の得意とする業務分野と集配・幹線輸送網の総合力を活かした輸送システムの品質向上と効率化に努めてまいりました。また、専門輸送・物流保管業務の分野におきましても、担当分野で培った物流ノウハウや施設をエスライングループ全体で共有して、より質の高い物流サービスの提供をグループ会社の総合力を結集して取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、営業収益187億41百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益2億91百万円（前年同期比136.7%増）、経常利益3億57百万円（前年同期比81.6%増）、四半期純利益45百万円（前年同期比97.2%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

〔物流関連事業〕

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業などであります。

貨物自動車運送事業のうち、当社グループの主力であります特別積合せ部門では、エスライングループが得意とする、集配網と幹線輸送網に物流加工業務を組み込んだ量販店様向けの一貫納品物流システムを提供してまいりました。しかし、個人消費の低迷による国内貨物の減少と、業者間の貨物獲得競争による輸送単価の下落などにより、売上が伸びず非常に厳しい経営環境が続いております。このような状況の中で、協力会社も含めて集配コースの統廃合や物量に応じた配車指示などにより業務の効率化を推し進め、コストの削減に努めてまいりました。

専門輸送の分野におきましては、大手量販店様の調達から納品までの一貫した輸送業務、コンビニエンスストアの地域ルート配送、更には、家電や大型家具の保管・配送・設置業務など、得意な地域、得意な事業分野でグループ各社が連携しながら、荷主様の要請に的確に応えられる物流サービスの提供に力を注いでまいりました。

この結果、物流関連事業の営業収益は183億79百万円（前年同期比4.1%減）、営業利益は4億38百万円（前年同期比24.8%増）となりました。

〔不動産関連事業〕

不動産関連事業につきましては、エスライングループ各社にて保有している遊休資産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでおります。本年6月から㈱エスラインギフの旧上園支店（名古屋市中区）の跡地を外食チェーン店に賃貸を開始いたしました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は2億1百万円（前年同期比28.0%増）、営業利益は97百万円（前年同期比52.6%増）となりました。

〔その他事業〕

主に、旅客自動車運送事業を営んでおります。岐阜地区の高校や大学の通学バス、自治体のコミュニティバス、地元企業の社員通勤バスなどの定期運行に加えて、冠婚葬祭時の送迎や行楽の移動手段として、安全と安心を第一に、地域に密着した運営を行ってまいりました。

この結果、その他事業の営業収益は1億60百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益は30百万円（前年同期比50.2%増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の連結資産合計は282億60百万円となり、前連結会計年度末比9億74百万円減少いたしました。この主な要因は営業未収入金、未収入金および減価償却による有形固定資産の減少であります。

また、連結負債合計は142億43百万円となり、前連結会計年度末比9億14百万円減少しております。この主な要因は営業未払金、有利子負債および設備関係支払手形の減少であります。

連結純資産合計は140億16百万円となり、前連結会計年度末比59百万円減少しております。この主な要因は利益剰余金の減少であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は22億5百万円で、前連結会計年度末比9百万円増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは13億42百万円の収入（前年同期は6億58百万円の収入）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益および減価償却費の増加であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは6億62百万円の支出（前年同期は9億60百万円の支出）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは6億70百万円の支出（前年同期は5億79百万円の支出）となりました。これは、主に借入金の返済による支出であります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

最近の経済状況を踏まえ、連結業績予想につきましては、平成21年8月10日に公表した内容から変更しております。

詳細につきましては、本日開示の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっております。

④繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合に、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

⑤税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,399	2,413
受取手形及び営業未収入金	4,667	4,951
有価証券	5	5
貯蔵品	47	55
繰延税金資産	32	45
その他	413	541
貸倒引当金	△16	△18
流動資産合計	7,550	7,996
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,566	5,753
機械装置及び運搬具(純額)	1,931	2,308
土地	10,261	10,240
リース資産(純額)	189	148
その他(純額)	97	98
有形固定資産合計	18,045	18,550
無形固定資産		
施設利用権	206	155
無形固定資産合計	206	155
投資その他の資産		
投資有価証券	1,222	1,217
繰延税金資産	155	170
その他	1,121	1,182
貸倒引当金	△41	△37
投資その他の資産合計	2,457	2,532
固定資産合計	20,709	21,238
資産合計	28,260	29,234

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	3,643	3,829
短期借入金	1,690	1,990
1年内返済予定の長期借入金	952	1,118
1年内償還予定の社債	—	10
未払法人税等	167	112
賞与引当金	300	207
役員賞与引当金	6	10
設備関係支払手形	30	365
その他	889	874
流動負債合計	7,680	8,518
固定負債		
長期借入金	561	628
繰延税金負債	2,010	2,035
退職給付引当金	2,984	2,924
役員退職慰労引当金	171	184
負ののれん	136	159
その他	698	705
固定負債合計	6,563	6,639
負債合計	14,243	15,157
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,938	1,938
資本剰余金	2,812	2,812
利益剰余金	8,609	8,671
自己株式	△77	△76
株主資本合計	13,283	13,346
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	51	67
繰延ヘッジ損益	59	57
評価・換算差額等合計	110	124
少数株主持分	622	605
純資産合計	14,016	14,076
負債純資産合計	28,260	29,234

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業収益	19,483	18,741
営業原価	18,536	17,721
営業総利益	947	1,019
販売費及び一般管理費	824	728
営業利益	123	291
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	17	14
受取賃貸料	21	18
負ののれん償却額	20	23
持分法による投資利益	0	1
その他	42	37
営業外収益合計	103	95
営業外費用		
支払利息	22	21
売上割引	2	1
債権売却損	4	4
その他	0	2
営業外費用合計	29	29
経常利益	196	357
特別利益		
前期損益修正益	14	—
固定資産売却益	36	25
国庫補助金	12	—
その他	1	2
特別利益合計	64	28
特別損失		
固定資産除売却損	68	121
前期損益修正損	1	—
減損損失	—	4
その他	1	0
特別損失合計	71	126
税金等調整前四半期純利益	189	259
法人税等	151	198
少数株主利益	15	15
四半期純利益	22	45

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
営業収益	9,879	9,622
営業原価	9,377	8,974
営業総利益	502	648
販売費及び一般管理費	430	353
営業利益	71	294
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	3	2
受取賃貸料	10	9
負ののれん償却額	10	11
持分法による投資利益	1	0
その他	21	21
営業外収益合計	47	46
営業外費用		
支払利息	10	10
売上割引	1	0
債権売却損	2	2
その他	0	0
営業外費用合計	14	13
経常利益	104	327
特別利益		
前期損益修正益	12	—
固定資産売却益	25	3
国庫補助金	12	—
投資有価証券評価損戻入益	—	39
その他	1	1
特別利益合計	51	43
特別損失		
固定資産除売却損	1	121
前期損益修正損	1	—
減損損失	—	4
その他	—	0
特別損失合計	3	126
税金等調整前四半期純利益	152	245
法人税等	134	129
少数株主利益	9	9
四半期純利益	8	107

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	189	259
減価償却費	594	724
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	1
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△21	60
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△5	△13
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4	93
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△7	△3
受取利息及び受取配当金	△19	△15
支払利息	22	21
持分法による投資損益 (△は益)	△0	△1
有形固定資産売却損益 (△は益)	△35	△24
有形固定資産除却損	67	120
営業債権の増減額 (△は増加)	458	280
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5	8
営業債務の増減額 (△は減少)	△197	△186
その他	47	△43
小計	1,082	1,281
利息及び配当金の受取額	20	15
利息の支払額	△22	△20
法人税等の還付額	41	178
法人税等の支払額	△463	△112
営業活動によるキャッシュ・フロー	658	1,342
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	18	78
定期預金の預入による支出	△56	△55
投資有価証券の売却による収入	0	2
投資有価証券の取得による支出	△4	△38
有形固定資産の売却による収入	65	83
有形固定資産の取得による支出	△984	△608
無形固定資産の取得による支出	△1	△152
その他	2	28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△960	△662
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△100	△300
長期借入れによる収入	660	400
長期借入金の返済による支出	△519	△633
社債の償還による支出	△510	△10
配当金の支払額	△107	△106
少数株主への配当金の支払額	△2	△2
その他	△0	△18
財務活動によるキャッシュ・フロー	△579	△670
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△881	9
現金及び現金同等物の期首残高	3,107	2,196
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,226	2,205

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

	物流関連事業 (百万円)	不動産関連 事業(百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
営業収益	9,725	78	74	9,879	—	9,879
営業利益	207	31	6	246	(174)	71

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)

	物流関連事業 (百万円)	不動産関連 事業(百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
営業収益	9,424	117	80	9,622	—	9,622
営業利益	355	55	17	428	(133)	294

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	物流関連事業 (百万円)	不動産関連 事業(百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
営業収益	19,173	157	152	19,483	—	19,483
営業利益	351	64	19	435	(312)	123

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	物流関連事業 (百万円)	不動産関連 事業(百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
営業収益	18,379	201	160	18,741	—	18,741
営業利益	438	97	30	566	(275)	291

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分

事業区分	事業内容
物流関連事業	貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業 他
不動産関連事業	不動産賃貸事業
その他事業	バス事業

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
在外子会社および在外支店がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
在外子会社および在外支店がないため、該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
在外子会社および在外支店がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
在外子会社および在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
海外売上高がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
海外売上高がないため、該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
海外売上高がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6)株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

各 位

株式会社 エスライン
(コード番号 9078 名証2部)

平成 22 年 3 月期 第2四半期決算発表 (参考資料)

連結決算

1. 第2四半期業績の推移

(単位:百万円、%)

	20年3月期	21年3月期	22年3月期	
	実績	実績	実績	対前期 増減率(%)
連結子会社	22社	22社	22社	
売上高	19,436	19,483	18,741	△ 3.8
営業利益	417	123	291	136.7
経常利益	478	196	357	81.6
第2四半期純利益	185	22	45	97.2

過去最高～売上高・利益

(第2四半期) (単位:百万円)

売上高	21年3月期	19,483
営業利益	20年3月期	417
経常利益	20年3月期	478
第2四半期純利益	19年3月期	292

2. 通期の業績予想

(単位:百万円、%)

	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	
	実績	実績	実績	予想	対前期 増減率(%)
連結子会社	22社	22社	22社	22社	
売上高	39,254	39,904	38,947	37,500	△ 3.7
営業利益	703	1,066	420	750	78.6
経常利益	894	1,205	554	850	53.4
当期純利益	567	482	△ 414	750	---
連単倍率	---	---	---	---	---

(通 期) (単位:百万円)

売上高	20年3月期	39,904
営業利益	4年3月期	1,468
経常利益	4年3月期	1,223
当期純利益	4年3月期	1,801

【第2四半期業績】

- ・売上高は、景気の低迷により輸送物量が減少したことにより187億41百万円(前年同期比3.8%減)となりました。
- ・利益は、軽油価格の下落による燃料費の減少と、車両や施設の効率的活用によるコストの削減に努めたことにより増加いたしました。

【通期予想】

総輸送物量が伸び悩むなか、業者間の貨物獲得競争がさらに激化し、厳しい経営環境が続くと予測しております。このような状況下で、更なる経費(特に外注費や施設費)の削減と、輸送品質の向上による収入確保に取り組み連結業績の確保を図ってまいります。

- ・特別積合せ事業では、グループ全体の集配網と路線網を活かして構築した物流システムの輸送品質と事業領域を更に進化させてまいります。
- ・専門輸送や物流加工業務におきましては、担当業務内で培ったノウハウをエスライングループ内で共有し更に質の高い物流サービスの提供を目指して、グループの総力を結集して地域に密着した営業展開と事業領域の拡大や新規取引先の獲得に積極的に取り組んでまいります。
- ・グループ会社間での連携を密にして、グループ内で業務を取り込むことにより、質の高い物流サービスを提供するとともに、外部経費の削減に努めてまいります。

3. 設備投資と減価償却費の状況

(単位:百万円、%)

	21年 3月期		22年 3月期			
	通期実績	対前期 増減率(%)	第2四半期 実績	対前期 増減率(%)	通期予想	対前期 増減率(%)
設備投資	2,314	△ 0.9	317	△ 59.5	410	△ 82.3
減価償却	1,352	25.1	724	21.8	1,463	8.2

※主な設備投資の状況
静岡支店の改修、車両の購入

以 上